

重点施策		健康な心と体を養うスポーツ活動の推進		評価実施者		所 属	社会教育課
				職・氏名		課長 竹谷和徳	

重点施策の概要	目 的	生涯にわたり健康であるため、子どものころから心と体を養うスポーツに親しむとともに、スポーツ大会を通じて人々が集まり交流できる環境づくりを推進します。					
	今年度の主要事業	①「たきかわコスモスマラソン」の開催による市民参加者数の拡大及び市民の体力向上を図る ②市民の体力向上を目指すため、各競技団体及び市民によるスポーツ施設の利用拡大を図る ③競技人口の拡大を図るため、全道・全国の大会の誘致を行う					

事業の目標と実績	区 分		単位	H22	H23	H24	特記事項	
	1	コスモスマラソン市民参加者数	目標 実績	人	160 149	160 231	462 260	参加者 H22～1,228人、H22～1,362人、H24～1,721人
	2	スポーツ施設利用人数	目標 実績	人	248,700 241,512	248,700 233,747	283,284 212,428	H24は温水プールを民間移管(▲28,527人)
	3	全国・全道大会開催数	目標 実績	回	12 12	12 25	12 24	
	4		目標 実績					
	5		目標 実績					
			目標 実績					
			目標 実績					
			目標 実績					
			目標 実績					

事業の分析 効果の検証	①「たきかわコスモスマラソン」は、インターネットのスポーツ大会専用サイトで選手受付を行うようになったことで、年々参加者が増加してきたとともに、市民マラソンとしての知名度もあがってきた。特に40歳～59歳の参加者が2009年と比較して1.9倍と増加し、全体の1/3を占める状況となった。 ②スポーツ施設の利用状況は、施設の見直しなどにより、本町体育館の廃止(▲3,146人)や温水プールの民間移管(▲28,527人)のため、減少となった。 ③全国・全道大会開催数は、毎年開催している全日本少年野球春季北海道予選会や滝川陸上競技選手権大会、たきかわコスモスマラソンなどのほか、北海道還暦軟式野球選手権大会や国体北海道予選バドミントン大会など24大会を開催した。
	①「たきかわコスモスマラソン」は、次年度から国道12号を活用した新コースで大会を開催するため、交通整理やケガ・事故などに対応するボランティアはこれまでの約2倍の500人以上を必要とする。新コースでのスムーズな運営や、ボランティアの確保、ランナーの受け入れ態勢などこれまで以上の事前準備が必要。 ②各競技及び市民によるスポーツ施設の利用拡大を図るため、施設の改修計画が必要。

評価	A 評価の視点1 期待どおりの効果があったか コスモスマラソンは、前年度より359人増の1,721人と過去最高の参加者数となり、市民参加者数も増加してきた。コスモスマラソンを通じて、多くの方が滝川市に集い交流しており、期待どおりの効果があった。 評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 今後、次年度新コースでの大会を予定しており、ランナーの安全確保を基本に、市民マラソンとして定着するよう大会を成長させながら継続していく。
----	--

【評価の区分】

A: 期待どおりの成果が得られ、今後も事業を継続する
 B: ほぼ期待どおりの成果が得られたが、さらなる発展のため事業を見直す余地がある
 C: 概ね期待した成果は得られたが、事業の見直しが必要である。
 D: 期待する成果が得られず、廃止も含めた見直しが必要

事業の今後の方向性	新コースでのコスモスマラソンが定着するよう、一般財団法人滝川市体育協会をはじめとする関係団体との連携を強化し、また、滝川スポーツクラブの利用者へマラソン参加PRをするなど、市民参加の増加方法を検討し、市民の体力向上を目指す。 ■ 拡充 □ 縮小・統廃合 □ 質的向上 □ スピードアップ □ 検証 ■ 継続
-----------	--

◎外部評価委員の評価・意見等

点検・評価に関するコメント	コスモスマラソンは滝川のPR効果もある。これからはもっと充実させるには多くのボランティアの確保が課題。
---------------	---